




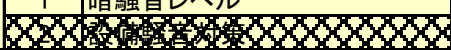
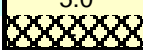














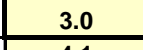

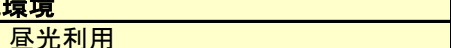
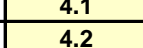

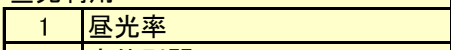
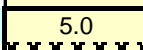

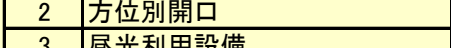
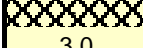

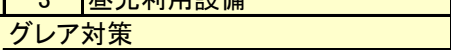
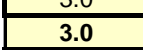




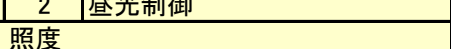
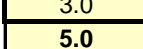










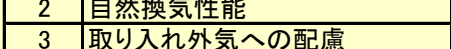
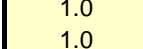





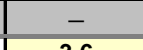





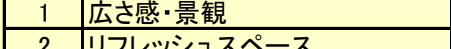
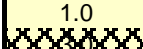

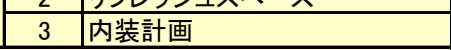
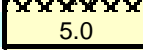

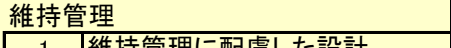
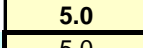





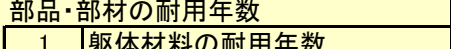
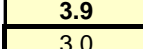








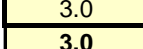




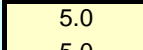

















**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
**駿台予備学校 広島校**

 用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>4.1</b>	0.15		-			<b>4.1</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>5.0</b>	0.40		-			
1 暗騒音レベル	敷地内暗騒音56dB。開口T-2(30等級)とLNC想定:20~25dB。	5.0	1.00		-			
			-		-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.8</b>	0.40		-			
1 開口部遮音性能	t6+A12+t6の複層ガラスT-2(30級)を採用。	5.0	0.30		-			
2 界壁遮音性能	教室間はTLD-50以上の遮音間仕切りとする。	5.0	0.30		-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	0.20		-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20		-			
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20		-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.4</b>	0.35		-			<b>3.4</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.8</b>	0.50		-			
1 室温設定		3.0	0.60		-			
			-		-			
3 外皮性能	高性能複層ガラス(U=1.8)+明色ブラインド、ALC、押出成形セメント板+断熱15。	5.0	0.40		-			
4 ゾーン別制御性			-		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20		-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30		-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>4.1</b>	0.25		-			<b>4.1</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>4.2</b>	0.30		-			
1 昼光率	昼光率 5.0%	5.0	0.60		-			
2 方位別開口			-		-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>3.0</b>	0.30		-			
			-		-			
2 昼光制御		3.0	1.00		-			
<b>3.3 照度</b>		<b>5.0</b>	0.15		-			
1 照度	照度計算により750~1000lxであることを確認。	5.0	1.00		-			
			-		-			
<b>3.4 照明制御</b>	作業単位ごとに点灯範囲を分けてリモコンスイッチにより制御可能。	<b>5.0</b>	0.25		-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25		-			<b>3.9</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50		-			
1 化学汚染物質	すべての仕上材料はF☆☆☆☆以上とする。(仕上表に明記)	5.0	1.00		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
<b>4.2 換気</b>		<b>2.3</b>	0.30		-			
1 換気量	建築基準法の必要換気量の1.4倍以上とした。	5.0	0.33		-			
2 自然換気性能		1.0	0.33		-			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33		-			
			-		-			
<b>4.3 運用管理</b>		<b>3.5</b>	0.20		-			
1 CO <sub>2</sub> の監視	ビル管法に則り適切に計測、管理をする。	4.0	0.50		-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50		-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.6</b>	0.40		-			<b>3.6</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.40		-			
1 広さ・収納性			-		-			
2 高度情報通信設備対応			-		-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.0</b>	0.30		-			
1 広さ感・景観		1.0	0.50		-			
2 リフレッシュスペース			-		-			
3 内装計画	コンセプトを明確にし、パースや動画CGを用い内装・照明を一体的に計画。	5.0	0.50		-			
<b>1.3 維持管理</b>		<b>5.0</b>	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した仕上げ、計画に配慮。(仕上表に明記)	5.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保	維持管理に配慮したスペースの確保、計画としている。(平面に記入)	5.0	0.50		-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.4</b>	0.31		-			<b>3.4</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.2</b>	0.48		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能	制震構造を採用。	4.0	0.20		-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.9</b>	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	主な仕上げ材の補修必要間隔は30年以上。(ACW、耐候性塗料)	5.0	0.23		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	主な仕上げ材の補修必要間隔は20年以上。(ビニルシート、クロス、岩綿吸音板)	5.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	レベル5を満たす配管を使用。	5.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-			

2.4 信頼性			3.2	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、可能な限り配管の系統を分離。	4.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.4	0.29			3.4
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31			
1	階高のゆとり		3.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁比率 2.3	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		積載荷重を事務所仕様2900N/m <sup>2</sup> で設計。	4.0	0.31			
3.3 設備の更新性			3.0	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30			3.6
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみへの調和を配慮しながらシンボル性のある外観デザインとした。	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30			3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空間提供や豊かな中間領域形成、防犯性の向上に配慮した計画とした。	4.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.5
LR1 エネルギー			-	0.40			3.5
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30			3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		ERR=10	4.7	0.30			4.7
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.7
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4
1.1	節水	節水コマに加え、擬音、節水型便器を採用。	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.63			3.9
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	路盤、舗装用ブロック、磁器タイル、ブロック、ビニル床	5.0	0.21			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別できる材料を採用。	5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22			3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シーリング材、壁面塗料、塗床材	5.0	0.32			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68			
1	消火剤		-	-			
2	断熱材		3.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO <sub>2</sub> 排出率が一般的な建物と同等	3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮			3.2	0.33			3.2
2.1	大気汚染防止	燃焼器具を使用していない。	5.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3	交通負荷抑制	適切な駐車場、自転車置場を確保	5.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制	分別回収が可能なストックスペースを確保	4.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.50			
2	振動		3.0	0.50			
3	悪臭		-	-			
3.2	風害、日照阻害の抑制		3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3	光害の抑制		4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	エネルギーの有効利用に配慮した照明計画	5.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			